

# 未来派と女性——アヴァンギャルド運動初期の偏見と修正、理論と神話（一九〇九—一九二八）

報告 横田さやか

二十世紀初頭のヨーロッパに同時多発的に興きた歴史的アヴァンギャルドのなかでも、とりわけイタリア未来派（未来主義）は、男性優位主義的人間像を掲げた運動であり、それは「女性蔑視を賛美したい」（『未来派創立宣言』一九〇九）といった暴力的な言葉遣いに象徴されると解釈されうる。そうした「炎上」を狙う未来派のプロパガンダ的手法にばかり焦点が当てられ、現象としての未来派の多面性は見過ごされがちだ。その多様なアスペクトの一面として挙げられる、たとえば芸術実践において未来派という活動の場を得た女性アーティストたちの豊かな作品創作も、未来派にみられるジェンダー表象をめぐる問題系も、戦後の芸術批評の俎上に上がることはほとんどなく、今世紀に入り改めてこれらの論題へ関心が向けられたばかりである。本講演にお迎えしたローマ・ラ・サピエンツァ大学のチェチリア・ベツコ講師は、未来主義のという形容をつけた作品を執筆した女性作家のアソロジーを編纂し（二〇〇七）、未来派の文学テキストにおけるジェンダー表象について詳細に論じた研究書を出版している（二〇一三）。未来派とは、はたして男性優位主義であったのか？ 女性たちの未来派文学には何が書かれたのか？ こうした問いを丹念な一次資料調査とテキスト読解を通して追究してきた第一人者である。

本講演では、未来派活動期（創立宣言が発表された一九〇九年から創立者マリネッティが死去する一九四四年までとされる）のうち、創立初期のテキストに的を絞り考察が進められた。まず、マリネッティによる女性描写が見られる複数のテキストを参照するにあたり、『未来主義者マファルカ』（一九一〇）に現れる女性像を明らかにすることで突破口とした。さらに、ヴァラントイーヌ・ドウ・サン・ポワンが記した、マリネッティへの返答となる『未来派女性宣言』（一九一二）、『未来派肉欲宣言』（一九一三）が対照項に挙げられた。小説『未来主義者マファルカ』は、マリネッティ着想によるキーテーマが散りばめられた実に興味深い物語だ。——アフリカの王マファルカが王子を産む。女性の関与なしに産んだその王子とは、夜も眠らず覚醒している翼を生やした不死身の超人である。——このように生命誕生に際し女性の存在が不要とされるうえに、マファルカが愛情と敬意を示す女性であるかれの母親は、既に墓に眠る存在である。しかしこの小説を引用して強調された重要な論点とは、だからといってこの作品をマリネッティの女性蔑視主義の証左と捉えることはできない点である。たとえば、マリネッティによるスキャンダラスな指南書『いかにして女を誘惑するか』の出版を契機とした、雑誌『未来主義イタリア』上に展開



した一九一七年の論争が重要な転換点として注目される。女の口説き方という狙い通り物議を醸したこの出版物に依じて雑誌上に意見した女性たちは、未来派という芸術の現象のなかに身をおいて、ときにマリネッティとの共著として作品を書いた作家たちであった。未来派の煽動者であり続けたマリネッティこそ、女性に画家や作家としての活動の場を開き、女性による新しい芸術の可能性を見通していた事実は、第一次大戦という社会的転換点を越え、その後の未来派の展開の多様性に証明されていくこととなる。

講演に続き、報告者は本報告の冒頭に述べたように、イタリアの未来派研究におけるベッロによる研究成果の意義を解説した。続いて、考察対象となったテクストが内包する両義性に敏感に反応するベッロの丁寧な読解手法を高く評価したうえで述べられた、和田忠彦本学名誉教授によるコメントは、未来派と女性をめぐるテーマから発展しうる関連テーマへの関係関係を示した。——イタリアのモダニズムの限界を体現したといえる未来派とファシズム、『未来主義者マファルカ』にみられる機能美学的な可能性と失敗、同時代のアヴァンギャルドに属さない作品、さらにはネオ・アヴァンギャルドにみられる女性像とは。——こうした刺激的な問いかけもきっかけとなり、会場では活発な質疑応答が行われた。本講演は、異なる関心領域から集まり会場を埋めた聞き手の誰にとっても刺激的な内容であったことと思う。なお、本講演の和訳原稿が『立命館言語文化研究』（三十二巻二号、粒良麻央訳）に掲載される予定である。

総合文化研究所共催 講演会

Il futurismo e le donne: pregiudizi e correttivi, teoria e mito nelle prime fasi del movimento d'avanguardia (1909-1918)

未来派と女性——アヴァンギャルド運動初期の偏見と修正、理論と神話（一九〇九—一九一八）

日時：二〇一九年六月二十七日（木）

場所：東京外国語大学 研究講義棟四階 四二二教室

講師：チェチリア・ベッロ（ローマ・ラ・サピエンツァ大学）

主催：「歴史的アヴァンギャルドの作品と芸術実践におけるジェンダーをめぐる言説と表象の研究」日本学術

振興会科学研究費基盤研究（B） 研究代表者 西岡

あかね

共催：東京外国語大学総合文化研究所

後援：立命館大学国際言語文化研究所

コメンテーター：和田忠彦（本学名誉教授）

横田さやか（東京大学特別研究員）

司会：小久保真理江（本学特任講師）

通訳：土肥秀行（立命館大学教授）